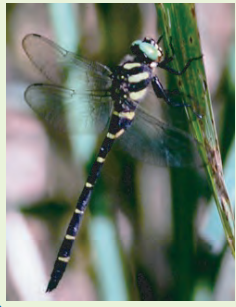




トンボをさがそう



発行：福井県自然保護センター
写真協力：松村俊幸氏



オニヤンマ

(大きさ 10cm)
●日本で一番大きなトンボ
●6～10月に林の近くの流れのある水辺で見かける



ギンヤンマ

(大きさ 7cm)
●6～9月に、平地や里山の水草が多く流れがあまりない水辺で見かける



クロスジギンヤンマ

(大きさ 6.5cm)
●5～7月に、平地や里山の水草が多く、ややうす暗い水辺で見かける
●8月には見られなくなる初夏のヤンマ



オス

メス



シオカラトンボ

(大きさ 5cm)
●5～11月に、身近な池や田んぼなどの水辺でふつうに見られる
●若いオスやメスは黄色いのでムギワラトンボといわれる



オオシオカラトンボ

(大きさ 5～6cm)
●6～10月に、池や田んぼ、小川などの流れがない水辺で見かける
●シオカラトンボより色がこく、オスは全体に「シオカラ」色



ハグロトンボ

(大きさ 6cm)
●6～10月に、水草や岸辺に草が生えたゆるやかな流れの小川で見られる
●おはぐろトンボと呼ばれている



アキアカネ

(大きさ 3～4cm)
ナツアカネと似ている。むねのもようで見分ける。

むねのもよう

真ん中の線の先がとがる



ナツアカネ

(大きさ 3～4cm)
アキアカネより少し小さい、オスは顔もむねも赤い

むねのもよう

真ん中の線がスパッと切れる



ノシメトンボ

(大きさ 4～5cm)
アキアカネやナツアカネに似ているが、羽の先が茶色

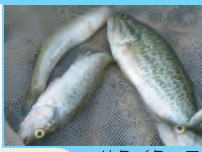


外来生物をさがそう

いれない！
すてない！
ひろげない！



成魚



幼魚(魚の子ども)

オオクチバス

- 北アメリカ東部原産で、1925年に神奈川県芦ノ湖に入る
- 口が大変大きく、背びれの真ん中にへこみ、体の横に黒いはん点がある
- 湖沼や川の流れのゆるやかな所にすむ
- 魚、エビ、虫、鳥のヒナ、ネズミなど動物なら何でも食べる

なぜ外来生物がいけないの？



日本の生き物を食べてしまう
日本の生き物とエサをあらそう



日かげを作って日本の生き物をおおってしまう



日本の生き物と雑種をつくる

人間に害をあたえることも・・・
花粉症の原因になる
かみつく、畑をあらす



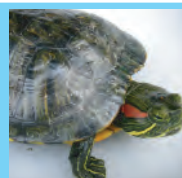
アメリカザリガニ

ニホンザリガニとよくにているが、福井県にはニホンザリガニはいない
赤くないザリガニはメスカ子ども



ウシガエル

目のうしろに丸いこまがある。牛のような声でなく



アカミミガメ(ミドリガメ)

目のうしろに赤いもようがある。子どもは全体がみどり色をしている



ブルーギル

幼魚はしまもようがある。成長するとしまはうすくなり、全体に茶色っぽくなる



セイヨウタンポポ

花びらの下のみどり色の部分がそりかえる



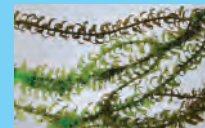
セイトカアワダチソウ

9～10月に咲く、高さは1～2mになる



オオキンケイギク

5～6月に咲く、高さは50cmくらい



ココナダモ

水の中に生える。花びらが3枚ある白い花が咲く



オオカナダモ

水の中に生える。ココナダモより葉がおおきい



いきもの
ひやくようばこ